



金目川水系流域ネットワーク

世話人会

せせらぎ通信

8月の水温調査

8月の暑い中、真夏の金目川水系の水温調査の結果がまとまりましたのでお知らせいたします。何年も川を見ていると微妙に変化していることがわかります。近くの川を直視して新しい発見をしましょう。アユが堰堤で飛び跳ねている様子を見て感動しました。何度も何度も飛び越えようとしていました。

河川名	調査地点橋	気温	現地水温	河川名	調査地点橋	気温	現地水温
金目川	蓑毛庵前	22	17	渋田川	川上橋	30	22
金目川	才戸橋	28	18.5	渋田川	道灌橋	30	24
金目川	金目川橋	30	19	渋田川	上谷橋	29	23
葛葉川	四山橋	23	18	渋田川	太田橋	29	25
葛葉川	向山橋	23	19	渋田川	土安橋	29.2	27.2
葛葉川	九沢橋	23	20	渋田川	美里橋	27.3	26.5
葛葉川	葛葉橋	23	20	渋田川	渋田大橋	26.5	26.4
金目川	入船橋	26	21	渋田川	新大繩橋	28.3	26.7
金目川	十代橋	26	21	渋田川	中原橋	28	26.7
金目川	天王下橋	26	21	渋田川	立堀橋	27.9	26.5
金目川	弘法橋	26	20	大根川	大根橋	30	27
水無川	風のつり橋	29	24	大根川	ひので橋	30	27
水無川	平和橋	27	24	大根川	真田橋	30	28
水無川	堀土大橋	30	26	善波川	矢茂井橋	27.3	27
水無川	まほろば橋	30	32	善波川	出口橋	27.3	27.3
水無川	室川橋	30	29	善波川	桜橋	28.8	24
室川	川久保橋	26.5	24	板戸川	木津根橋	33	28
室川	白笹橋	27.5	23	板戸川	板戸川橋	32	29
室川	中尾橋	27.5	19	大根川	大畑橋	29	27
室川	今泉堂橋	27.5	19	鈴川	叔母様橋	31	23
金目川	大安橋	26	20	鈴川	東橋	32	28
金目川	蓬萊橋	26	21	鈴川	新白鬚橋	30	27.5
金目川	南平橋	27.5	22	鈴川	岡崎大橋	29	27.4
金目川	土屋橋	26	23	鈴川	東橋	30	27.7
座禅川	座禅川橋	28	25	渋田川	玉川橋	27	26.5
座禅川	芳盛寺	27	24	金目川	平塚大橋	27	24.5
座禅川	寺分大橋	27	24	河内川	下河原橋	29	27
金目川	観音橋	26.5	24	河内川	蔵之前橋	27.7	27.2
金目川	通学橋	29.3	24.7	河内川	万年橋	28	27.1
金目川	吾妻橋	29.9	24.9	金目川	高麗大橋	27	25.6
金目川	水神橋	29.5	24.8	金目川	花水橋	27	25.6
金目川	新霞橋	28.9	25	金目川	下花水橋	27	25.8
渋田川	石橋	31	23	金目川	花水川橋	27	25.8

5年継続の6月における COD調査の報告

金目川水系流域ネットワークの19人の仲間が流域の54橋地点で調査を行いました。上流は水が澄んでいる、下流にいくほど濁っていた。下流にいくほど都市化になり、私たちが生活していくうえで川を汚しているようです。

2018年6月 金目川水系流域の状況

- 1、上流はCODが0から2である、中流はCODが2から3である、下流は4以上である。
- 2、COD調査は、水の汚れを表す指標の一、水中の有機物を酸化剤によって酸化するのに消費される酸素量です。水1ℓあたりのミリグラム数で表す。単位はPPM 数値が高いほど水中の汚濁物質が多いことを示します。化学的酸素要求量。



川のごみは、自然の中で流れていくうちに川の中の生き物、バクテリア・ハミープなど目に見えないような小さい微生物などによって分解されてきれいになっていきます。川の自浄作用です。川が心無い人達によってゴミが捨てられて、川が汚れてしまったときに、底泥浚渫（ていでいしゅんせつ）を国土交通省が行っています。大きな水槽に15cm位の石を並べて、川の水を通して、石に住み着いた微生物の生き物によって分解、食べさせて浄化する自浄作用を応用した方法です。また、川に汚いものを流した結果、チッソ、リンなどのよごれの原因となる栄養塩類が川底たまってしまっていて、その物質が溶けだして、川や湖を汚しているときは、その泥を浚渫船や重機で掘って川を汚れないようにする方法です。水際に生えている植物ヨシが密集している中を水を通して、植物の汚れの原因となる「チッソ」「リン」を吸収（チッソ、リンは植物が成長するための必要な栄養素です）ヨシ以外ではセリやクウシンサイなどの食用野菜を水耕栽培して水をきれいにする取り組みがあります。

金目川の鮎

永尾貴一

最近では環境に関心の高い市民の方々、行政の尽力により金目川の水は一部の支流を除いて綺麗になっています。

鮎は秋の終わりから初冬にかけて河口近くで産卵して一生を終る。孵化した幼魚は海に下り、相模湾内で冬を過ごし春になると遡上を始めます。

遡上するに従い、大きくなっていきます。川の中では天然の石に付着する苔を食べています。

過去の金目川について、80才以上の古老の記憶では60年以上前の金目川には2018年現在の鮎よりも多くの鮎と今よりはるかに大型の鮎がいたとのこと。また川の水量も現在の4倍以上あったとのこと事です。

40年〜10年前の金目川は汚染され、悪臭が漂っていました。その頃、魚は殆どいなくなっていました。また、いくつかの堰が今でも魚の遡上を阻害しています。

近年、金目川では鮎はある程度戻ってきましたが、2018年8月現在でも絶滅危惧種(アカカケ、カジカ等)、準絶滅危惧種(カマツカ、アブラハヤ、ウグイ、ホトケドジョウ等)と定義され未だに個体数が減少したままの状況です。

金目川の水は綺麗になっても、いまだに多くの絶滅危惧種、準絶滅危惧種が存在する事は水以外の要素で破壊された環境がもとには戻っていない、また元の自然を取り戻すことが容易ではない事の証明です。

昨年は5・6・7月に雨が少ない状況でしたが、今年は春から夏にかけて適量の雨が降り、他の遡上魚には良い状況でした。この様な状況下、鮎は昨年より多く遡上しています。



地球温暖化の影響で今年の夏は異常な暑さでした。そのために7-8月は観音橋付近で金目川の水温が30℃位まで上昇して鮎たちは湧水のある場所に避難していました。湧水があったおかげで鮎が中流域でも生きながらえた状況でした。

鮎たちは秋の終わりから初冬にかけて徐々に川を下り、河口近くで産卵して一生を終えます。鮎は原則として1年しか生きていません。

また、最近では金目川で釣り人、水遊びをする子供達、バーベキューをする人が増えています。

自然を大切にしたい人への

波紋 ひろがり

柳川三郎

想像を超えた夏の暑さの中、金目観音堂の前で、湘南ジャーナルの記者と向き合っていて掲載していただける喜びをタラタラ流れる汗を、ものともしないで金目川の魚類の本についてインタビューしていただきました。

記事が一面のトップに掲載されたうれしさは格別でした。すぐに読者から電話が鳴り本をほしいとの声で、私は早い電話のその人にびっぴりしました。

その人の声は弾んでいるように、またまた、感激した次第です。そして、お会いして、本を手渡しました。なんと、そのような、人が20人を超えました。

中には、わざわざ、藤沢からやってくる方もいました。一緒に皆さんから自然が好きとのことや、金目川に家族で来て川の生き物が大好きな人でした。私は多くの自然を愛する人たちへ響きあえたようで、大きな喜びでした。

「ここに至るまで、おおぜいの人たちの真剣な取り組みに、感謝ではございます。さらに、また、今回の事でメディアの偉大さを実感しました。

努力すれば、一人でも心から、向き合ってくれる人がおられるとの確信は大きな出来事でした。

金目川の魚類

この本に載せた写真の魚はすべて金目川でつかまえたものです



金目川で記録のある魚全60種を掲載!

著:西巻 尚・北野 忠

(東海大学 教養学部 人間環境学科)

編集協力:金目川水系流域ネットワーク

「湘南里川づくり」取組みのご紹介



写真は平成29年度の「秦野市市民の日」に出展し、会の活動をPRした際の様子です。

丹沢大山を源流に湘南地域を流れ、相模湾に注ぐ金目川(かなめがわ)水系。
“湘南里川(やつかわ)の会”とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を地域の貴重な財産として次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民(湘南里川見守り隊)と行政の協働により清掃、草刈、植栽、生き物観察会など河川等の保全・活用に取り組む活動のことです。
この「湘南里川づくり」を流域全体に広げていくため、市民と行政とが連携し、設立された「湘南里川づくりみんなの会」。
「湘南里川づくりみんなの会」では、現在、「湘南里川見守り隊」の会員を募集中です。
みなで、活動情報を交換したり、金目川水系の理想像について語り合いませんか?
ぜひ、ご参加ください!

湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。詳細は、ホームページで!

里川づくり

検索

問合せ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課

電話 (0463) 22-2711 (内線 2111~3)

ホームページアドレス